



# 気温が高くなりました 食中毒にご注意を！

令和6年7月3日  
富山県感染症情報センター  
(富山県衛生研究所内)  
(0766-56-5431 直通)

## 感染症発生動向速報

(令和6年第26週分・6月24日～6月30日)

### 《インフォメーション》

#### ●食中毒に注意しよう

第26週における富山県の感染性胃腸炎の報告数は、定点医療機関あたり3.69人でした。感染性胃腸炎は、細菌またはウイルスなどの病原体による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。一年を通じて報告され、冬季から春季にかけて、ウイルス性胃腸炎（ノロウイルスやロタウイルスなど）が多く、夏季には細菌性胃腸炎、特に食品を介した食中毒事例が多く報告されます。

昨年の厚生労働省の細菌性食中毒統計によると(表参照)、全国ではカンピロバクターを原因菌とする食中毒件数が211件(67.8%)と最も多く、全体の半数以上を占めていました。一方、1事例当たりの患者数ではウエルシュ菌が最も多く報告されています。これは、ウエルシュ菌食中毒の多くが給食施設や仕出屋など、大量調理を行う場所を原因として発生しているためです。富山県においても、2023年1月にカレーを原因食品としたウエルシュ菌の集団食中毒が発生しました。

ウエルシュ菌による食中毒は6～18時間の潜伏期間の後、主に腹痛と下痢症状が出現します。ウエルシュ菌は熱に強く、12～50℃に長時間保たれることで、食品中において大量に増殖すると考えられています。対策として、調理後速やかに食べる、保存する場合は小分けにして短時間で冷却する、室温に長く置かない、十分な再加熱を行うなどの方法が推奨されます。

気温の上昇により、食中毒のリスクが高くなっています。販売店、購入者共に、手洗いなどの基本的な感染予防に加え、食品の温度管理にも気を付けましょう。

### 《全数報告の感染症》

- 二類感染症 結核 4件 (①20歳代、女性 ②70歳代、女性 ③80歳代、女性 ④90歳代、女性)
- 三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1件 (20歳代、男性、O157、VT2)
- 五類感染症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件 (80歳代、女性)
- 梅毒 3件 (①第25週診断分：40歳代、男性、早期顕症梅毒Ⅱ期  
②50歳代、男性、晩期顕症梅毒  
③50歳代、女性、早期顕症梅毒Ⅰ期)

### 《定点報告の感染症》

今週の県内上位6疾患		定点あたりの数	
順位	疾病名	今週(増減)	先週
1位	手足口病	10.93 (↑)	5.55
2位	感染性胃腸炎	3.69 (↓)	3.86
3位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.45 (↑)	3.34
4位	COVID-19	3.02 (↓)	3.13
5位	RSウイルス感染症	2.93 (↑)	1.79
6位	咽頭結膜熱	1.90 (↓)	2.31

富山県感染症情報センターURL: <https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/>

※第9週分以降、URLが変わりました



細菌性食中毒発生状況 (R5年全国)

原因菌	件数	患者数	1事例当たりの
	n (%)	n (%)	患者数
カンピロバクター	211 (67.8)	1937 (46.4)	9.2
ウエルシュ菌	28 (9.0)	1097 (24.4)	39.1
サルモネラ属菌	25 (8.0)	655 (14.6)	26.2
ぶどう球菌	20 (6.4)	258 (5.7)	12.9
腸管出血性大腸菌(VT産生)	19 (6.1)	265 (5.9)	13.9
その他の病原大腸菌	3 (1.0)	116 (2.6)	38.7
セレウス菌	2 (0.6)	11 (0.2)	5.5
その他の細菌	1 (0.3)	1 (0.02)	1.0
総数	311	4501	14.5

出典 厚生労働省「R5食中毒統計」

○感染症発生動向調査報告状況（令和6年第26週 令和6年6月24日～令和6年6月30日）

分類	疾患	今週報告分（第26週）					累積報告数（令和6年第1週（1月1日）～）							
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	
全数把握	二類感染症	結核	1		2		1	4	8	2	21	5	28	64
		（再掲）結核：無症状病原体保有者を除く	1		2			3	5	2	11	3	15	36
	三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症				1		1			1	2	3	6
	四類感染症	E型肝炎											1	1
		レジオネラ症								1	7	1	14	23
	五類感染症	アメーバ赤痢											2	2
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症							1		2		8	11
		急性脳炎									1		1	2
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症							1		2	1	8	12
		後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）										1	2	3
		侵襲性インフルエンザ菌感染症			1			1			3	1	2	6
		侵襲性髄膜炎菌感染症											1	1
		侵襲性肺炎球菌感染症							2		1		4	7
水痘（入院例）								1	1				2	
梅毒		1				1	2	1		2	3	9	15	
播種性クリプトコックス症											1	1		
百日咳											1	1		
定点把握（上段：報告数、下段：定点医療機関当たりの報告数）	インフルエンザ／COVID-19定点（47定点）	インフルエンザ			1		1	1,066	1,029	4,035	1,561	5,067	12,758	
		COVID-19	26	23	40	26	27	142	1,321	774	2,358	1,284	2,068	7,805
		4.33	4.60	3.08	3.71	1.69	3.02							
	小児科定点（29定点）	RSウイルス感染症	3		63		19	85	28	49	281	35	220	613
		咽頭結膜熱		4	17		34	55	80	245	635	34	635	1,629
				1.33	2.13		3.40	1.90						
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	2	48	4	45	100	161	158	2,354	291	1,091	4,055
			0.25	0.67	6.00	1.00	4.50	3.45						
		感染性胃腸炎	17	14	23		53	107	618	607	1,305	638	3,016	6,184
			4.25	4.67	2.88		5.30	3.69						
		水痘			8		5	13	2	11	103	9	53	178
					1.00		0.50	0.45						
		手足口病	9	26	98	11	173	317	33	140	216	16	440	845
			2.25	8.67	12.25	2.75	17.30	10.93						
		伝染性紅斑							1		7	1	6	15
	突発性発しん			6	2	4	12	7	10	76	19	70	182	
				0.75	0.50	0.40	0.41							
ヘルパンギーナ	5	1	16		18	40	58	9	25	6	72	170		
	1.25	0.33	2.00		1.80	1.38								
流行性耳下腺炎	2					2	2	1	3	2	5	13		
	0.50					0.07								
眼科定点（7定点）	急性出血性結膜炎										2		2	
	流行性角結膜炎							8	1	27	5	9	50	
基幹定点（5定点）	無菌性髄膜炎										3		3	
	マイコプラズマ肺炎									6	1	1	8	
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）									1			1	
入院サーベイランス（5定点）	インフルエンザによる入院患者（※1）							21	10	31	48	69	179	
	COVID-19による入院患者	2	2	3	5	8	20	108	105	76	133	354	776	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和5年第36週（9月4日）～の集計です。